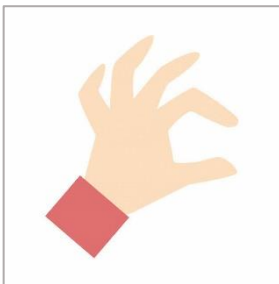


焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。

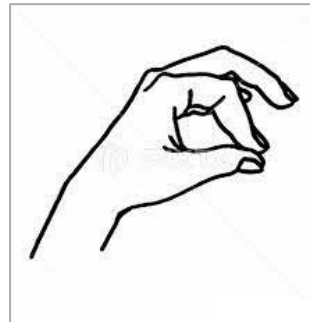
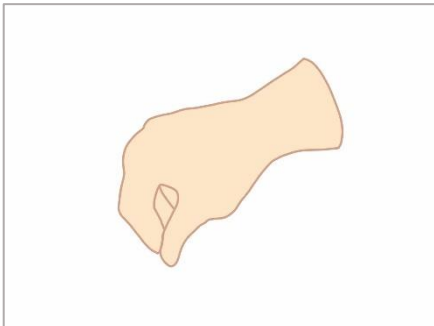


「つまむ力」をきたえよう

通級児の在籍学級担任から連絡をいただきました。小学校5年生になる通級児の学級では、家庭科の授業で裁縫が始まったところでした。「針の扱いに苦戦している」との情報を得た私は、まなびの教室でできることを考えました。



針と糸の扱いが苦手な要因として、
・親指と人差し指の2本の使い方に慣れていない
・親指と人差し指で作業をする時の中指・薬指・小指の3本の扱いに慣れていない
と考えました（本児の手指の使い方の観察を通して）。



針と糸の扱いが少しでも楽になるように、トレーニングを始めました。

「親指と人差し指で作業をする時、『中指・薬指・小指をしまう』」を合い言葉にしました。まなびの教室で、ペグさしや細かい物をつまむ練習を通して、中指・薬指・小指の3本の指中にドングリを握らせ、落とさないように、親指と人差し指で作業をする練習を行いました。



針と糸や布を持つ手が、
「親指と人差し指で作業をする時、『中指・薬指・小指をしまう』」
という手の形で作業を進められるようになると、針と糸等の扱いが楽になると思います。

実は、裁縫だけではなく、様々な場面で、手指の使い方がぎこちなかったり、不器用さが見られたりする場合には、指の使い方を教えることで、解決に近づくことがあります。